

OBI P STYLE

オビピースタイル

帯広市PTA連合会

帯広市PTA連合会通信
第105号 WEB特設ページ

令和6年3月11日発行

発行責任者/野田 和宏
編集/広 報 部
編集責任者/中山 史也

インタビュー! 子育て教育部-貴戸部長

全文章を
載せて
みました!



Q1. 分科会のテーマや講師の方はどのようにして決めましたか?

私が部長を務めさせて頂きました3年間は下記の方法で進めました。

1学期(5~6月)に部会を開催し、部員さん達の投票で『聴きたい講演内容』の候補を出しました。講演内容の案が出尽くしたと思えたら、その後に皆さんに投票して頂き、今年の聴きたい講演内容ランキングを作りました。

その後は講師探しです。主に副部長さん達に動いていただきながら、講演内容ランキングの上位から順にお話をして頂ける講師を探しました。

2学期の前半(9月末まで)には講師選定が終わっているイメージで動きました。

副部長さん達がとても優秀で、「〇〇の話なら△△の××さんが出来そう!」と意見を出してくれました。聴きたい講演内容さえ決まれば、どこからか講師を見つけてきて頂けるイメージでした。

Q2. 今回の「子育て未来フェス」で印象に残っていることを教えてください

部員さん達が自発的に動いてくれて、頼もしかったです。どこにでも助っ人として入れるように、常に5つの会場を歩き回って様子を見ておりましたが、当日、私の出番はありませんでした。

歩き回った結果、一つ一つの分科会をゆっくりと聴くことはできませんでした。来年はゆっくり聴きたいなと思います。



Q3. 「子育て未来フェス」で大変だったことは？

子育て教育部の部長は、常に「準備の進捗」と「来場者数」を気にして一年を過ごすことになると思います。

三役の皆さんの協議により、年度の早い段階でフェスの開催日は決まっています。その日に間に合うようにスケジュールを逆算して部の活動を決めるのですが、世の中がコロナ明けで忙しく動いた年ということもあり、自分も皆さんも忙しくてなかなか日程調整が難しく...という状況で進めました。担当の校長先生(今年度は新津校長先生)にはできるだけ負担をかけないような部の運営をしたかったのですが、終わってみれば今年も多大なるご負担をかけた一年になってしまいました。

愚痴になりますが、準備を進めている途中で「会長の一声」が入って軌道修正するのが少しばかり大変でした。

今までの「研究大会」という呼び方はお堅いイメージなので「フェス」にしようという案を頂いたのも2学期に入ってからだったと思います。「え、今から修正？」みたいな話がたまに入ってきました。今回のように呼び方の変更くらいなら、まあ良いのですけれど。

来場者数については、気にすると言われても常に気になりました。会長からは、「興味のある人が来てくれれば良い、参加者数を問うものではないので。」とおっしゃっていただきました。そうは言っても、こちらから依頼した講師の方々に気持ち良く話をして頂くことを考えても、ある程度の来場者数は欲しく、もっと数字が伸びてくれないものかと常に考えていました。



Q4. 運営にあたり、こだわったところを教えてください

正副部長と比べて打ち合わせや参加の回数が少なくなる部員さん達に、準備段階から携わっていることを実感して欲しいと思い行動していました。

もちろん、子育て未来フェスの当日だけ会場にやってきて手伝ってもらうのでも十分に助かります。しかしながら、可能であれば、初期段階から自分たちの意見が取り入れられて準備が進められてきたイベントなのだと思われたいと部員一人一人が感じてくれると嬉しいなと思っておりました。

フェス当日は実働してくれる部員さん達に混乱が生じないようにしたいと思い、直前の部会では役割分担の他に全体の流れが把握できるように話を進めました。私の力が足りず、十分にできたとは思えませんが、ちょっとでもこういったことを感じてくれれば嬉しいです。フェスの当日は、どんなに準備をしたつもりでも何が起きるか分かりません。当日は私と担当の校長先生はフリーな状態にして、不測の事態にも対応できるようにと心がけておりました。

使わないで済みましたが、印刷物で足りないものがあつたら困ると思い、自分の車にモノクロのレーザープリンターとパソコンまで積み込んでいました。これはやりすぎでした。

Q5. 今後の部の展望を教えてください

今年度で部長を引退する予定です。

後任の新部長の行動を縛るものではないとして、私の思うところをお伝えします。

子育て教育部の大きな目的の一つは、保護者と教職員が一緒になって学べるような「学びの場」を提供することです。これは今後も変わらないで欲しいと希望します。

一方で、それを実現するための手段は、いろいろと試行錯誤して良いのではないかと思います。2～3年前は新型コロナウイルスの感染拡大防止のためにオンライン開催となりました。



昨年度～今年度はリアル開催に戻しました。リアルで人と会う方が熱意が伝わるので良いと思う一方で、オンライン開催も貴重なノウハウの一つです。

こういった良い点をミックスしていき、これからの人たちが参加しやすいやり方を探し続けていって貰えれば良いと思います。今年度、調理室が確保できれば学校給食のメニュー再現もしたいと話しておりました。

実現できませんでしたが、いろいろ皆さんでアイデアを出して頂き、準備段階からフェスを楽しんでいただければ幸いです。

貴戸部長!ありがとうございました!